

# しゃくなげ



DENSOKU 発行日 2021年12月15日  
No. 500号 発行 株式会社でんそく

ありがとう  
ございます



## しゃくなげ500号！特別寄稿



関西電力株式会社  
理事 北陸支社長 久米 一郎

いつもお世話になっております。

この度は㈱でんそくさまの社内報しゃくなげの記念すべき500号の紙面に寄稿させていただくという機会をいただき、たいへん光栄に思いますとともに、私ごときに貴重な紙面を割っていただいたことにははだ恐縮しております。

今年7月に初めて富山に着任いたしました5か月が経過いたしました。その間、富山の自然の美しさ、富山の人のやさしさ、そして富山の酒と食事の美味しさを常に堪能できる素敵日々を過ごさせていただき、この地で勤務させていただけることを深く感謝しています。そんな富山の生活の中でも特に深く感じ入るようになったのは「水への感謝の気持ち」です。

先日、そのことを強く感じる出来事がありました。黒部川の水の神様をお祀りする黒部川神社の祭礼に参列させていただいた際のことです。その日は朝から小雨のぱらつくあいにくのお天気でしたが、式典開始前から雨もやみ、やがて雲の隙間から多少青空も見える天気となりました。やがて、祝詞も終わり、一人一人が玉串を奉納しながら水の恵みと安寧に感謝しておりましたところ、突然雷鳴が鳴り響き、再び強く雨が降ってまいりました。ただの偶然の出来事に過ぎないかもしれませんが、私は雷鳴を聞きながら自然の大きな力、人知を超えたものに畏れを感じ、肅然とした気持ちになりました。この地で水力発電というまさに水の恵みを最大限使わせていただいている弊社にとりまして、自然と共生し、水への感謝の気持ちを忘れず事業を続けていくことがいかに大切か、あらためて考える機会となったと考えています。

昨今、カーボンニュートラルの時代を迎え、水力発電についても再び世間の注目が集まり喧しい状況となっております。もちろん水力発電が再評価されるのはまことに喜ばしいことで、富山にとりまして経済活性化の大きなチャンスと言えます。ただ一方、その経済性ばかりに光が当たる現状はバランスを欠いているといえるのではないのでしょうか。

水力発電は厳しい自然と向き合いながら行う事業です。経済性ばかりに目を向けた事業は必ず相応の代償を払うことになるのではないかと懸念します。私も関西電力はこれまで長い間、㈱でんそくさまはじめこの富山で地に足を付けて事業を続けてこられた協力会社のみなさまとともに地道に水力発電事業に携わってまいりました。これだけ長きに亘って事業を展開してこられたのも、水への感謝の気持ちを忘れずに、地元のみなさまとともに富山の自然への尊崇の念を持ち続けてきたからではないかと思えます。

今後関西電力は先日策定いたしましたゼロカーボンビジョンの下、新たな社会からの要請に応えるべく、水力発電分野におきましても既存施設の有効活用や地域のみなさまと一体となった発電所のさらなる開発に取り組んでまいります。引き続き水への感謝の気持ちを忘れず、㈱でんそくさまはじめ地元の皆様方と力を合わせて電気事業に取り組んでいきたいと考えておりますので引き続き

## 500号によせて

代表取締役社長 櫻井 賤男

8年前に400号発行にあたり、関西電力㈱北陸支社長 吉津 洋一様に特別寄稿いただいておりますが、今回500号記念誌にも今年7月、関西電力㈱北陸支社長に着任された久米 一郎様に寄稿をお願いした中で、快く受けていただき有難うございました。この文面の中で「水への感謝の気持ちを忘れず」という言葉が4回繰り返されている事に気づきました。私共北陸に生まれ育った人間として水は空気と同様、あつて当たり前で生活している中で、あらためて無くてはならないものである事を気付かせていただきました。この水を資源とする水力発電事業にかかわる仕事を電力会社様からいただいていることに対してでんそく社員一同感謝の気持ちで一杯です。今後も安全確保につとめ、お客様のニーズにそえる会社となるよう努力致しますので宜しくお願いします。

久米支社長様、特別寄稿有難うございました。

## でんそくの2021年

今年は昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響でちょっと出かけるにも気を使ってしまう事が多かったです。来年こそは気楽に、楽しく！家族や友達と旅行や外出などが出来る様になればいいなと願います！さて、今年も来年に向けてでんそくの今年を振り返ります！



(1月)フィロソフィ研修会開催！若手社員を対象に『仕事を好きになる』大切さをグループ討議しました。



(1月)ISO9001:2015の再認証審査をして頂きました。



(4月)令和3年度㈱でんそく入社式及び社員表彰が行われました。今年度は7名の新入社員を迎えました。



(2020年12月)令和2年度企業局優良工事表彰において、富山県公営企業管理者 山本 修様より富山県公営企業管理者賞を頂きました。



(4月)曹洞宗 瑞龍山 最勝寺にて新入社員等の参禅研修を行いました。



(4月～)IoT、DXについて新しい情報を社内共有するための研修会が、中村真二さんを社内講師として開催されました。



(5月)関西電力送配電㈱北陸電力本部 電力本部長齊田 茂様より感謝状を頂きました。新愛本変電所の変圧器の製作から現地施工の工事を安全に完遂したことによるものです。



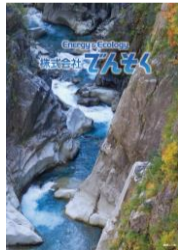
(5月)㈱J-POWER ハイテック代表取締役社長大塚史郎様より特別奨励賞を頂きました。これは、職場の安全確保に努め、無事故・無災害の成績を収めたことによるものです。



(5月)安全運転管理の重要性を深く認識し、交通安全活動を積極的に推進することで交通事故防止に大きな成果を収めたとして、富山県警察様より記念品と感謝状、表彰状を頂きました。



(7月)2021年度でんそく安全衛生大会が富山流通会館でコロナ感染対策を考慮して初めてのリモートを取り入れた開催となりました。



(7月)新しい社案内を製作しました。



(10月)北陸電力送配電㈱ 富山支社 高岡電力部長 石田 浩之様より、工務部の堀井 祐太朗さんが感謝状を頂きました。



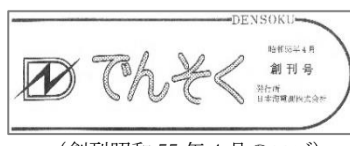
(10月)㈱致知出版社 課長 仙田 貴也様を講師として「コミュニケーション活性化研修会」が開催されました。

## 社内誌創刊を振り返って

昭和55年4月、当社の本社及び工事部隊が根塚町から八日町へ新築移転となり、同時にこれまで砺波にあった製造工場も移転、統合されました。創業から15年、初めて社屋を新築し、全社員が同じ拠点で働ける環境が整いました。これを機に社内誌も創刊される運びとなりました。社内誌発刊の逸話は、山田前社長が、当社のお客さまである関西電力㈱北陸支社長様より、「一人前の会社になるためになくしてはならないもの」は社是・社歌・社内誌だと教わり、社屋新築、拠点統合に合わせて、社内誌の発刊を決意されたと聞いています。

あれからもう40年が過ぎました。先日当社の50年史編さんにあたり、この社内誌からの情報は大きな威力を発揮しました。これからも10年、20年と会社の歴史を見守る存在として、続いてくれることを願っています。総務部 鳥居陸美

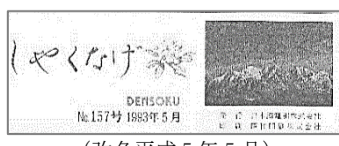
## ～編集後記～



(創刊昭和55年4月のロゴ)



(改名昭和63年9月)



(改名平成5年5月)

2021年も足早に過ぎてしまいました。年末が近いなあ……そろそろ大掃除しなきゃなあなどと思っているうちに終わってしまわないように気を付けて、やり残しの無いように年末を迎えたいです。今月号は記念すべき社内誌しゃくなげ500号となりました！創刊号の昭和55年の4月5日……年月だと41年7ヶ月になるようです。年数を見ると改めてすごいなと思います。今年もお忙しい中、沢山ご協力いただきました！ありがとうございました！これからもしゃくなげをよろしく願います！(Y.M)